



# かおり通信



茅ヶ崎市立香川小学校 25年度12月号 平成25年11月29日

## 蟻の列踏まるることを考へず 久松久子

毛利智宏

季節感のない、なんだか物騒な句を掲げましたが、今回はそれぞれのご家庭で今一度問い直して見ていただきたいことを話題としました。

道を渡るアリは果たして向こう側まで無事に渡りきれのでしょうか。途中、人から踏まれるかもしれません。往来する車に轢かれ命を落とすかもしれません。無事に渡ることは全くの運に委ねられていると考えていいでしょう。しかも、列をなすアリは仲間の不運に気づかず、もちろん我がごとと感ずることもなく、同じ危険に身を投じています。

私たち人間はどうでしょうか。多かれ少なかれ運で生き延びているようなことはないでしょうか。アリにはとても失礼な話ですが、運だけで生きている姿を私は「ありんこ人生」と呼んでいます。歩行や自転車の飛び出しによる交通事故は市内でも後を絶ちません。事故に遭ったのはたまたま不運であって、事故に至らなかった飛び出しが、星の数ほどあることは容易に想像できます。スケートボードにキックボード、道路いっぱい広がった歩行、自分の命はドライバー任せ……まさにありんこ人生……大人も子どももそんな人生になっていませんか。交通事故だけではありません。生き方や考え方そのものがありんこ人生になっていませんか。

私たちは人間です。原因と結果を結びつけて考え、見通しや予測を立てることができません。他者に起こった事柄を自分に置き換えてイメージすることもできます。一つの出来事から全般的な教訓へと考えを広げることできます。しかしながら子どもたちは発展途上、まだまだ未熟な状態です。だからこそ各ご家庭でまずは大人が自己チェックをしてみてください。何かと慌ただしい師走を迎えます。幸運は大歓迎ですが、自らが不運を招くようなことは少しでも減らしていきたいですね。

## 平成25年度 全国学力学習状況調査より

本年4月24日に悉皆で行われた「全国学力学習状況調査」結果を次のように分析しました。

なお、☆印は本校での改善の方針です。これをもとに具体的な方策を検討しています。

I 全体的な傾向は全国・県と概ね同様ですが、国語はやや難点があります。

☆国語、算数ともに中央値よりやや下位の集団(仮にB'集団と呼ぶ)を意識しながらより丁寧な指導を組み立てる必要がある。

II 長く複雑な文章による設問では、回答率も下がる傾向にあります。また、解答形式が記述式の場合も回答率が下がる傾向にあります。長い文章や言い回しの難しい文章、設問に対して最初から諦めるなど逃避傾向が見られます。これについては次のような要因が考えられます。

- ・高度な文章に慣れていない。
- ・日常での会話、対話が貧しい。もしくは稚拙である。(語彙、言い回し、話題など)
- ・日常的な課題意識に乏しい。(社会事象、地域活動、学校内における自治意識など)

☆言語活動を意識し、特に読む・書く・話す経験を深め高度な文章から逃げない構えをつくりたい。

☆朝読書や読書指導は推進しているが、課題は読んでいる本である。安易に程度の低いものに流れていないか、年齢相応の本を読んでいるかなどの視点を大切にする。

III その他

☆家庭学習において宿題は必須としても、予習復習の習慣がほとんどついていない。習慣づけのための方策を開発、推進する必要がある。

☆ドリル的学習と言語活動を駆使した学び合いの学習の、メリハリを利かせた単元構成を考えることが肝要である。

## 《児童質問紙から見える気になる課題》

○習い事、社会体育等への参加状況は全国・県とほとんど変わらないが、地域活動への参加は少ないといえる。地域行事への受動的な参加(おまつりなど)は非常に盛んであるが、能動的な参加については低くなっている。

○テレビゲーム等は半数以上が少なくとも1時間以上している反面、学校以外での学習の時間は全国に比べて非常に短い。家庭学習に限定すると、半数が計画的な学習をしていないと答えている。

○達成感を味わう経験、自己肯定感、自信については、およそ半数が否定的回答であった。また、将来の夢やそれに向けた努力についても消極的な回答が多い。

